

## 令和8年度 夏季一般入学者選抜試験

### 小論文試験問題

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は8枚綴り、問題は片面に印刷されています。  
試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. この試験の問題は、ただ1つ特定の正解が存在することを前提とするものではありません。  
また、解答者の思想・信条を問うものではありません。
4. 解答用紙に定められた以外のことを記入した場合は、解答が無効になります。
5. 解答用紙への記入は、ボールペン又は万年筆（インクは、黒、青、ブルーブラックに限り、また、プラスチック製消しゴム等で消せないものに限る。）を使用してください。
6. 試験中、試験室で使用できる用具は、上記筆記用具のほか、下書き用に黒色の鉛筆、シャープペンシル、プラスチック製消しゴム、携帯用鉛筆削り、時計（計時機能だけのもの）、眼鏡です。ラインマーカー、下敷きは使用できません。時計のアラーム、携帯電話等は電源を切ってください。
7. 解答は横書きにして、原則としてマス目に1字記入してください。
8. 加筆・訂正・削除は、その記入方法も含めて自由とします。ただし、修正液・消しゴムなどを使用することはできません。
9. 加筆・訂正・削除をした場合は、それらを含めて、完成後の答案が字数の制限内に収まるようにしてください。
10. 読みやすい答案となるよう心掛けてください。
11. 試験問題の内容等について質問することはできません。
12. 途中退席はできません。気分が悪くなった場合等は手を挙げて監督者の指示に従ってください。
13. 解答用紙は回収しますので、試験を放棄する場合も持ち帰らないでください。
14. 問題冊子は持ち帰ってください。

## 問 題

次の文章は、森本あんり『不寛容論 アメリカが生んだ「共存」の哲学』（新潮選書、2020年）から抜粋した文章である。これを読んで、以下の問いに解答しなさい。

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

**【問１】（配点：２０点）**

筆者によれば、宗教に対する日本人の寛容さにはどのような特徴があるか。文中の言葉を使いながら３００字以上４００字以内で説明しなさい。

**【問２】（配点：３０点）**

下線部②「中世的な寛容」(下線部③「伝統的な寛容」と同義)と下線部④「現代的な寛容」それぞれの意味と両者の違いについて、文中の言葉を使いながら５００字以上６００字以内で説明しなさい。

**【問３】（配点：５０点）**

下線部①「自粛警察」のような、現代社会において異なる思想や信念のぶつかり合いによって生じる問題に対して、下線部②「中世的な寛容」という考え方は、具体的にどのように役立つと思うか、自分の考えを８００字以上１０００字以内で述べなさい。

**【解答作成上の留意点】**

- I 本問は、解答者の思想や信条を問おうとするものではない。また、法知識の有無を問おうとするものでもない。
- II 〔問１〕〔問２〕〔問３〕は、それぞれ独立のものとみなして採点する。必要な場合には、他の解答欄に記述したことで繰り返して記述しなさい。

【出題趣旨】

問1は長文読解力及び表現力を問う問題である。本書の記載に基づいて「宗教に対する日本人の寛容さ」について分かりやすく説明することが求められる。例えば、日本人の内心における宗教に対する寛容度は低い、実際の人付き合いでは寛容と礼節を守ること、宗教を重視する度合いが低く「無寛容」といえること、無寛容は一見温和に見えるが時として容易に「不寛容」へと変貌する危険があること等を述べることを期待される。

問2は長文読解力及び表現力を問う問題である。本書の記載に基づいて「中世的な寛容」と「現代的な寛容」の意味及び両者の違いを分かりやすく説明することが求められる。例えば、「中世的な寛容」(伝統的な寛容)では、寛容の対象は悪であって是認されないが、処罰するとより大きな弊害を生じるため処罰せず消極的に受け入れるという態度であるのに対し、「現代的な寛容」とは、寛容の対象を承認し敬意をもって包含的に受け入れる態度をいうこと等を述べることを期待される。

問3は、問2で回答した「中世的な寛容」の意味をふまえて、「自粛警察」問題のように、異なる思想や信念のぶつかり合いが常態化した現代において、自分と異なる価値観をもつ「他者」と平和的に共存するために、本書の「中世的な寛容」の考え方が具体的にどのように役立つのかについて、自己の考えを表現する能力を評価するものである。本書の「中世的な寛容」の考え方を正しく理解しており、かつ、自分の考えを合理的に説明できれば、本書の見解と異なる考えであっても構わない。